

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果 ～安平町の児童生徒の概況～

1 調査目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日

令和8年4月22日(水)→英語3技能、生徒質問調査(早来学園後期)
 令和8年4月23日(木)→国語、算数、数学(追分小、追分中、早来学園前後期)
 英語3技能、生徒質問調査(追分中)
 令和8年4月27日(月)→児童質問調査(追分小、早来学園前期)
 令和8年4月30日(木)→英語「話すこと」(追分中、早来学園後期)

3 調査対象(実施総数)

(1) 小学校・義務教育学校(前期課程)

調査対象	安平町	北海道(公立)	全国(公立)
第6学年	38	33,169	922,411

(2) 中学校・義務教育学校(後期課程)

調査対象	安平町	北海道(公立)	全国(公立)
第3学年・第9学年	37	32,596	841,873

4 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・ 小学校 (国語 算数)
- ・ 中学校 (国語 数学 英語)

(2) 質問調査

- ・ 児童生徒に対する学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

5 内容構成

(1) 教科に関する調査の状況

- ・ 平均正答率・平均IRTスコア
- ・ レーダーチャート
- ・ 各教科の傾向

(2) 結果チャート

- ・ 教科を中心とした学力・学習状況
- ・ その他の学力・学習状況(学習習慣、自己有用感等)
- ・ 正答数分布グラフ、IRTバンド分布グラフ(IRTバンド分布グラフは中学校英語のみ)

(3) 児童生徒質問調査の状況

令和8年9月 安平町教育委員会

令和8年度全国学力・学習状況調査 安平町内の状況及び今後の改善方策

○教科に関する調査の状況

小学校数:2校、児童数:38人 中学校数:2校、生徒数:37人

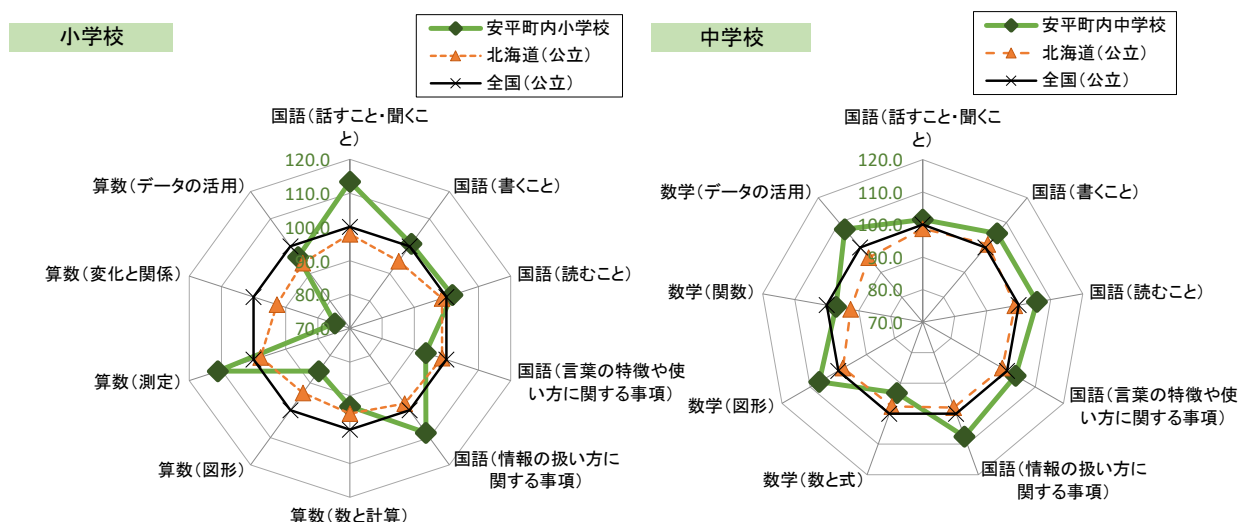
【平均正答率・平均IRTスコア】

- ・中学校英語は4技能(聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと)の平均IRTスコアです。
- ・IRTスコアとは、異なる問題から構成される試験の結果を同じ尺度で比較して生徒の学力を推定する統計理論です。 ※500が基準スコア
- ・令和8年度中学校英語は、共通の公開問題14問と生徒ごとに異なる非公開問題5問程度で実施されました。

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語(IRTスコア)
安平町	63	51	66	57	495
北海道(公立)	59.6	53.6	63.3	55.0	490
全国(公立)	60.9	56.4	63.9	57.0	499
全国値との比較	ほぼ等しい	下回る	ほぼ等しい	ほぼ等しい	ほぼ等しい

【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。



【各教科の傾向】

小学校

<国語>

話すこと・聞くことに関する設問の平均正答率が高い傾向があり、目的や意図に応じて情報を選択したり、把握したりする力が全体的に定着しています。漢字の書き取りの問題の正答率の低さや、記述式の問題に対する無回答率の高さに課題が見られました。

<算数>

時間の計算やグラフの読み取りなどの日常生活と結び付いた問題では全国を上回る平均正答率を達成しました。データの活用の領域の問題では、全国とほぼ等しい平均正答率を達成しました。思考、判断、表現を評価の観点とする問題や、変化と関係の領域の問題の平均正答率は全国を下回りました。

中学校

<国語>

全ての領域の問題において、全国を上回る平均正答率に達しました。特に、語句を文章の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題では、全国の前正答率を大きく上回りました。助動詞の働きや単語の類別などの基礎的な文法についての理解度を上げることが今後の課題です。

<数学>

説明、証明等の思考を要する問題においては、いずれも全国の前正答率を上回り、論理的に考えることができる生徒が多いことが窺えます。一方、正負の数の計算や同類項の識別などの基礎的な問題の前正答率が全国を下回り、課題として浮き彫りになりました。

<英語>

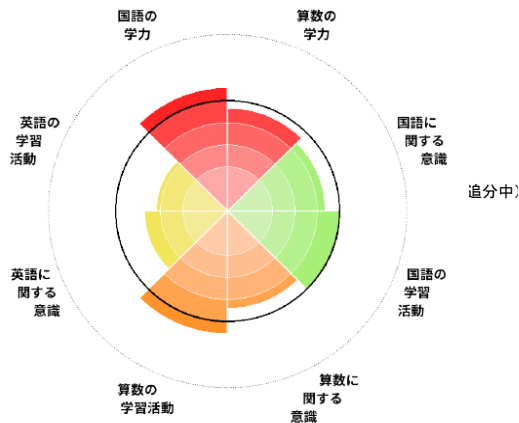
IRTスコアの分布では、全国と比較して上位層、中位層の生徒の割合がやや高い結果になりました。「話すこと」の領域において、身近な話題について英語を用いて表現する問題や、「書くこと」の領域において、自分の考えをまとまりのある英文として記述する問題では、全国を大きく上回る平均正答率を達成しました。

○結果チャート

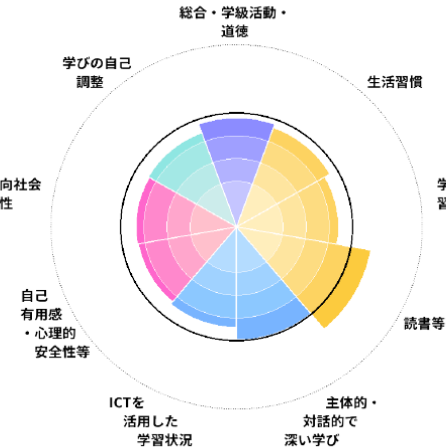
各学校の教科に関する調査、および児童生徒質問調査の結果について、全国平均(黒線)を比較基準とし標準化して図示したチャートです。(黒色の円が全国の基準、着色部分が安平町の児童生徒の状況)

小学校

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
(全国基準)



〔その他の学力・学習状況(学習習慣、自己有用感等)〕
(全国基準)



＜令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表＞

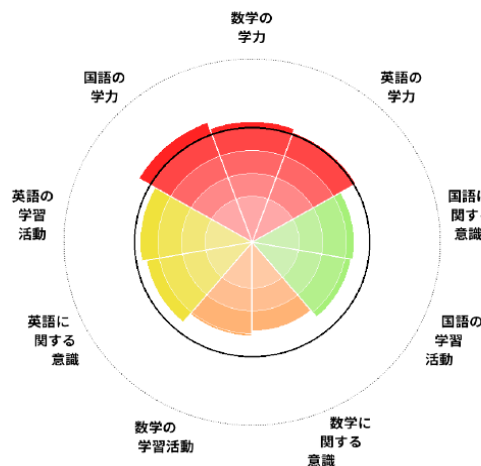
領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア	
			全国基準	北海道基準
1	国語の学力		5.6	5.7
2	算数の学力		4.7	4.9
3	国語に関する意識	(52)(53)(55)	4.4	4.4
4	国語の学習活動	(54)(56)～(59)	5.0	4.8
5	算数に関する意識	(60)(61)(63)(64)	4.4	4.7
6	算数の学習活動	(62)(65)～(67)	5.6	5.5
7	英語に関する意識	(69)～(71)	3.7	3.9
8	英語の学習活動	(72)(73)	3.2	3.5

＜令和8年度その他の学力・学習状況(学習習慣、自己有用感等)の領域名と児童質問番号の対応一覧表＞

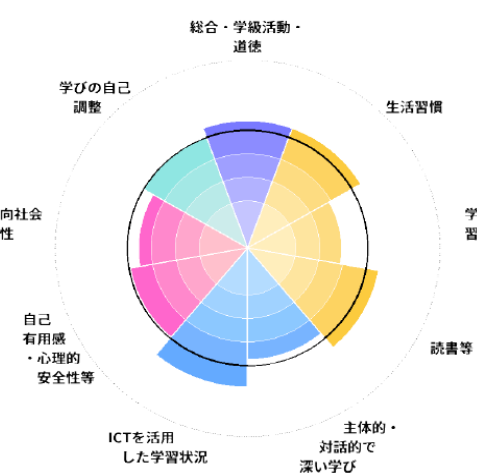
領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア	
			全国基準	北海道基準
9	総合・学級活動・道徳	(47)～(51)	4.8	4.5
10	生活習慣	(1)～(4)	4.6	5.0
11	学習習慣	(23)(25)	4.4	4.6
12	読書等	(26)～(30)	5.9	6.0
13	主体的・対話的で深い学び	(38)～(42)(44)(46)	5.0	4.8
14	ICTを活用した学習状況	(35)(36-1)～(36-4)	4.4	3.9
15	自己有用感・心理的安全性等	(6)～(9)(13)(15)(17)(20)(21)	4.3	4.5
16	向社会的性	(11)(12)(14)(33)	4.4	4.4
17	学びの自己調整	(22)(43)	4.4	4.5

中学校

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
(全国基準)



〔その他の学力・学習状況(学習習慣、自己有用感等)〕
(全国基準)



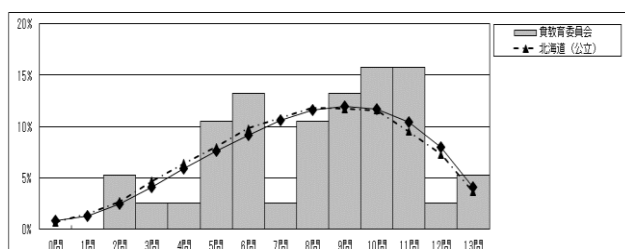
＜令和8年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	生徒質問 対応領域・質問番号	スコア	
			全国基準	北海道基準
1	国語の学力		5.6	5.6
2	数学の学力		5.3	5.4
3	英語の学力		5.1	5.3
4	国語に関する意識	(52)(53)(55)	4.3	4.3
5	国語の学習活動	(54)(56)～(59)	4.3	4.2
6	数学に関する意識	(60)(61)(63)(64)	3.9	4.2
7	数学の学習活動	(62)(65)～(67)	4.1	4.3
8	英語に関する意識	(69)(70)(72)(73)	4.6	4.8
9	英語の学習活動	(71)(74)～(76)(78)～(80)	4.8	4.8

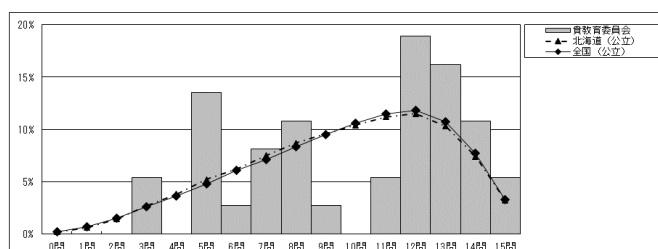
＜令和8年度その他の学力・学習状況(学習習慣、自己有用感等)の領域名と生徒質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	生徒質問 対応領域・質問番号	スコア	
			全国基準	北海道基準
10	総合・学級活動・道徳	(47)～(51)	5.4	5.0
11	生活習慣	(1)～(4)	5.4	5.6
12	学習習慣	(23)(25)	3.9	4.6
13	読書等	(26)～(30)	5.5	5.5
14	主体的・対話的で深い学び	(38)～(42)(44)(46)	4.7	4.6
15	ICTを活用した学習状況	(35)(36-1)～(36-4)	5.9	5.4
16	自己有用感・心理的安全性等	(6)～(9)(13)(15)(17)(20)(21)	4.9	5.1
17	向社会的性	(11)(12)(14)(33)	4.5	4.6
18	学びの自己調整	(22)(43)	5.0	5.1

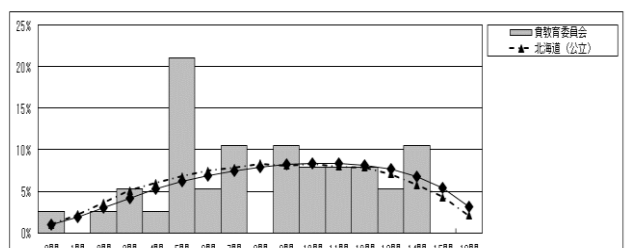
【正答数分布グラフ・IRTバンド分布グラフ】※IRTバンド分布グラフは中学校英語のみ



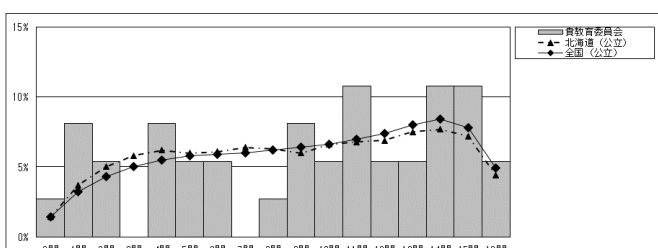
小学校国語



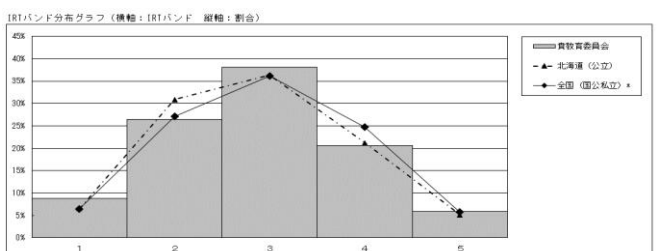
中学校国語



小学校算数



中学校数学

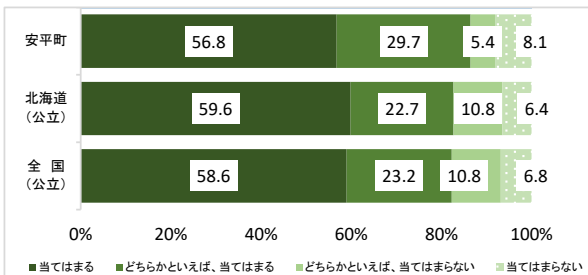


中学校英語 ※IRTバンド分布グラフ

○児童生徒質問調査の状況

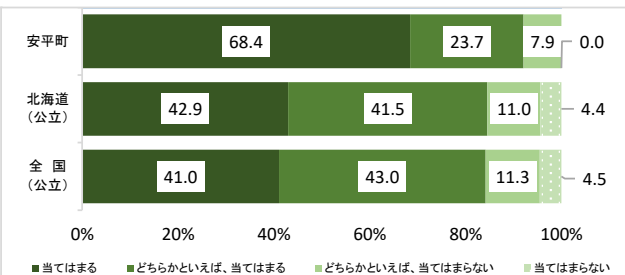
小学校 ＜児童質問＞

将来の夢や目標を持っていますか



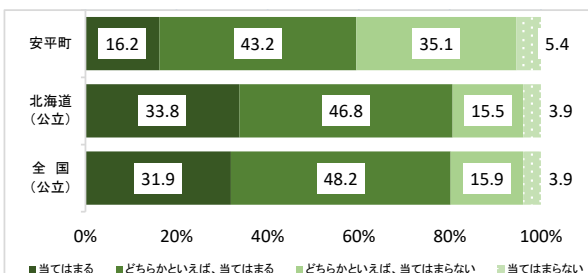
中学校 ＜生徒質問＞

自分には、よいところがあると思いますか



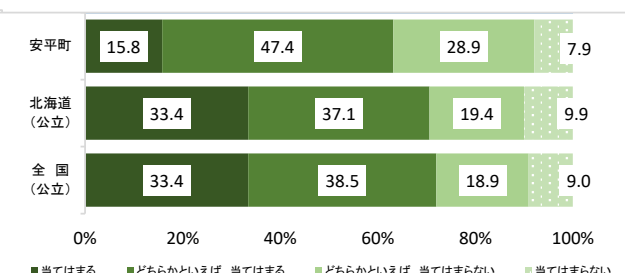
小学校 ＜児童質問＞

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



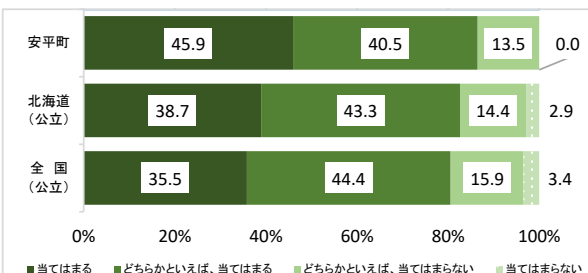
中学校 ＜生徒質問＞

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



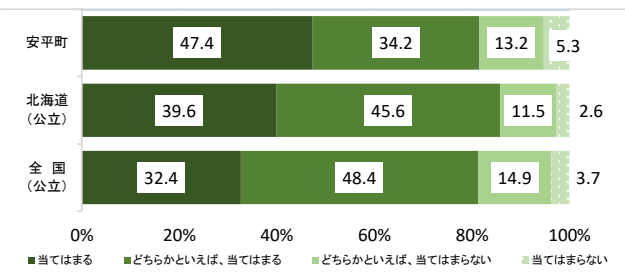
小学校 ＜児童質問＞

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



中学校 ＜生徒質問＞

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



【調査結果の分析】

小学校

本町の児童は、将来の夢や目標をもち、前向きな学校生活を送っています。授業においては総合的な学習の時間における学習や幼小保連携の取組、ICTの積極的な活用等を通じ、個々の児童が主体的に学習する姿勢を着実に身に付けていることが窺えます。一方で、地域や社会をよくするために何かをしてみたいと答えた児童は北海道平均、全国平均を下回っていることから、日頃の探究的な学習の成果が、まちづくりへの参画意欲にまで十分に結び付いていない点が課題です。

中学校

本町は子どもの権利や意見表明権を尊重し、自分らしく生きることを実感できる教育環境を整備してきました。そのことが実を結び、自己有用感が高い生徒が多く、周囲と良好な人間関係を構築しながら幸福感をもって生活しています。総合的な学習の時間においては、地域と連携した教育活動を通じ、あびら教育プランが掲げる探究のプロセスが確実に定着していることが窺えます。一方で、悩みや不安を抱えた際には、相談せずに一人で抱え込む傾向があり、周囲にSOSを出すことへの遠慮や抵抗感が存在することが読み取れます。

【今後の改善方策】

小学校

各学校と連携し、児童の実態を踏まえた柔軟かつ実効的な教育課程の編成に取り組めます。児童の主体的な学びの成果を校内の発表にとどめずに、地域や町民に広く伝わるように工夫を重ねるとともに、地域の人々との関わりや対話を通じ、感謝されることへの喜びや人の役に立つ実感を生み出し、地域への愛情と貢献意欲を育みます。さらに、あらゆる機会を通じて本町の教育課題を学校、家庭、地域社会で共有し、町全体で子どもを育てる意識の醸成に取り組めます。

中学校

各学校と連携し、生徒の実態を踏まえた柔軟かつ実効的な教育課程の編成に取り組めます。自ら悩みを相談することが苦手な生徒の特性を踏まえ、SOSの出し方に関する教育の充実や各種相談窓口の提示を確実に実施するとともに、1人1台端末を活用した毎朝の心身の健康観察を組織的に進めます。さらに、町全体として、教員だけではなく、多様な大人が生徒と関わる仕組みを確立し、地域全体で子どもたちを見守る体制を整備します。